

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一般に若い人々は青春というものを一つの特権と考えている。何をしても、何を望んでも、自分たちには許される、いや許されなければならない、という自信をもっている。これはまだ試してもみない自己の可能性を無限大に見つもって、それを恃たのむ心理であると共に、子が親に甘え、その庇護ひごを当然のこととして期待するように、人生に甘えている態度、人生を甘く見ている態度でもある。若い人々が高い理想をもち、大きな希望を抱くことはもとより妨げない。何事をもなしうるといふ自信をもつことも許されよう。しかし彼らがいったんその理想の追求をはじめたとき、彼らがかちえたものは悉ことごとく自己の実力によるものであり、彼らがなしえなかったことは悉く人生の不合理にもとづくものであると速断してよろしいであろうか。いうまでもなく世のなかには青年の力を借らずしてはなしえないことが沢山ある。社会の改造のごときはその尤もともなるものであろう。しかし自分の追求するものが自己の実力の外にあるとき、それより生じる失敗や悲劇の責任を①自己以外のものに転嫁するとは許されない。青年の犯す過失はそれが青年であるということによって許される場合がしばしばある。しかしそれはあくまでも許されるのであって、その責任の解除をこちらから要求する権利は全くないのである。私は青年も自らの過失によってしたたかに傷つくことを、また傷つくことを恐れないことを希望したのである。もし彼らの追求する目的が大きく高い場合には、彼らの流す血は実に美しく、そのような過失は断じて悔恨ととまなを伴うことはない筈はずである。②それは若気のあやまちなどではもちろんなく、青春時代の誇りということができよう。しかしながらもし彼らが、たとえ自ら意識しないにしても、他人を傷つけるばかりであって、自らは何の犠牲も払わないとしたら、その記憶は終生彼らを苦しめ、それを思い出すたびに穴があれば入りたい **A** を起さしめるに相違ない。だが青春の時代には常に自己を中心にして物ごとを考えやすいために、自己の言動がいかに他人を傷つけているかについては極めて **B** なのである。それとともに、自己の能力の限界を知らないことからくる **C** さんのために、他人から与えられた好意や親切に殆ど不感症である場合が多い。子をもって初めて親の恩を知るように、人の情けを身にしみて感じるのは壮年期を過ぎてからである。青年期が③忘恩の年齢であるといわれるのは **D**。若い人々が彼らに与えられる好意を自己の才能に対する評価と考えやすいことは一応無理からぬこととしても、率直に感謝の気持を表現しえないことを青年の弱点と考える反省が望ましい。

問一 傍線部の「自己以外のもの」とは何をさしているか。本文中のことばをそのまま抜き出して答えなさい。

問二 傍線部の「それ」とは何をさしているか。本文中のことばを用いて十五字以内で答えなさい。

問三 傍線部の「忘恩」とはこの場合どのような意味か。具体的に述べられている部分を、本文中からそのまま抜き出して、十五字以内で答えなさい。

問四 Aに入れるのに、最も適当と思われることばを、文中からそのまま抜き出して答えなさい。

問五 B、Cに入れるのに、最も適当と思われることばを、それぞれ次のなかから選り記号で答えなさい。

ア 臆病      イ 非情      ウ 傲慢      エ 安易

オ 鈍感      カ 無恥      キ 不明      ク 軽率

問六 Dに入れるのに、最も適当と思われる文を、次のなかから選り記号で答えなさい。

ア 理由のないことではない

イ 肯定し難い錯覚である

ウ いささかの疑問もない

エ いわれなき偏見である

オ 必ずしも正確ではない

カ 根拠のない中傷である

問七 文章を三つに分けるとすると、どこで切るのが最も適当か。①第二段落、②第三段落のそれぞれのはじめの五字を答えなさい。

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

① カンサンとした通り

② 税金をフカする

③ キンコウが崩れる

④ 公金をカイタイする

⑤ 時期シヨウソウだ

⑥ 岩石をハサイする

⑦ シシとして生まれる

⑧ 工事をサイリヨウする

⑨ 事態をユウリヨする

⑩ 父はカンリであった

⑪ チュウシンより祝う

⑫ カゲンの月

⑬ 意気阻喪する

⑭ 経費が漸増する

⑮ 醜聞に暴かれる

⑯ 同志を糾合する

⑰ 大統領に謁見する